

(1) 浸水害

可児川の氾濫による浸水の危険性が想定されています。可児川が氾濫した場合、国道21号と国道21号可児御嵩バイパスに挟まれたエリアが浸水想定区域となっています。

(2) 地震

本町に最も影響を与える活断層（屏風山、恵那山、猿投山断層帯）による地震において、震度5強から6弱の揺れが想定されています。特に町の南部の山地部では相対的に地震の揺れが大きくなっています。

(3) 土砂災害

用途地域の周辺や谷あいには多数の土砂災害警戒区域が指定されています。

(4) 亜炭鉱廃坑の危険度

1965（昭和40）年頃まで亜炭の採掘が活発に行われていました。現在でも市街地の地下に無数の廃坑が残っており、陥没の原因となっています。陥没被害はかなり少なくなりましたが、現在も続いています。

町の中心部や東海環状自動車道の周辺には、陥没の危険性が高いと考えられている15m以内の深度の空洞が分布していると推定されています。